

# 労使研

「情報」第52号 2017年1月

労使関係研究協会  
〒105-0014東京都港区芝2丁目  
20番12号（友愛会館8階）  
電話：03-3453-5386  
FAX：03-3451-1710  
関西支局  
〒550-0001大阪市西区土佐堀  
1丁目6番3号  
（JAM西日本会館内）  
電話：06-6225-2881

## 賀 正



本年もよろしく願いたします

## 2017年の新春を迎えて

一般財団法人日本労働会館  
理事長 小出 幸男



2017年の新春を迎えて、一言ご挨拶を申し上げます。

1931年（昭和6年）財団法人日本労働会館としてスタートし、今年で86年になります。また、会館が建て替わって、既に6年が経過しました。加えて、法人法の改正に伴い、一般財団法人日本労働会館として認可を受けて、5年が経過をしました。

公益事業では、友愛労働歴史館を中心に運営を強化し、延べ6,600名以上の来訪者を迎えて、労働運動の歴史を伝えるべく、公益法人としての機能を実現できたと自負しております。これもひとえに、諸先輩を始めとして、関係者及び関係団体の皆様の、ご支援の賜物として、改めて御礼を申し上げます。

同時に、戦後の労働運動に寄与された方々の思いを語っていただくということでスタートした労働講座もこの6年間で20回を超える講座を開設することができました。今後も引き続き労働講座を実践し、戦後の労働運動の画像を中心とした記録を、作り上げていく努力を行なってまいりたいと思います。

唯一の収益事業としてスタートした宿泊事業は、国の積極的な観光事業の推進で、海外からの顧客の増大で、昨年度は、稼働率が向上しました。しかし、今年は東京オリンピックを控えて、ホテルが乱立、都内では過当競争の様相を呈しています。唯一「売り」にしてきた、新しいホテルの売り込みも6年が経過し、リニューアルの効果も年々低下をしております。

今年は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに期待をして、ホテル料金の値上を見越していましたが、稼働率の向上を目標に、売り上げ増に努めて参りたいと思います。

公益事業(友愛労働歴史館及び労使関係研究協会)では、一定の支出をしなければならず、収益事業では、適正な収益を上げなければならないという相矛盾した運営を余儀なくされる日本労働会館です。その運営も一つの山場を迎えて、新たな決断をしなければならない時期を迎えています。今後も日本労働会館の存続を念頭に適切な対応をしていきたいと考えます。

改めてのご支援をお願い申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

# 労使関係研究協会の活動(2016年9月～12月)

労使関係研究協会の2016年9月から12月にかけての活動は、労働講座を1回、講演会を1回、研修会を1回、開催しました。労働講座は前金属労協議長の西原浩一郎氏を招き、「外資系企業における労使交渉の現実」をテーマに開催。講演会は関西で、「今一度考えてみよう介護問題」を前大阪府会議員で現在は特別養護老人ホームの施設長の富田健治氏から講演を受けました。

研修会はこの3年間の懸案だった「富岡製糸場」を見学。富岡製糸場はUAゼンセン同盟の中核組合である片倉工業が所有し、管理していた産業遺跡です。

## 1.第21回労働講座

日時：2016年10月25日(火)

場所：東京・友愛労働歴史館研修室

テーマ：外資系企業における労使交渉の現実（日産リバイバルプランに対する労働組合の対応）

講師：自動車総連顧問 西原浩一郎氏

1992年に日産労連の書記長となり、座間の閉鎖を経験した。94年に委員長となり、座間の閉鎖を見届けた。日産労連には360組合、13万人がいる。事務局長になった翌年（99年）が「日産リバイバルプラン（NRP）」だった。

99年10月18日にルノーから経営陣を迎えることになった。NRPは一切の例外を許さず徹底してすすめられた。顧客志向を重視し、社内広報を徹底した。経営状況を説明する社内放送時には、ラインを止めた。そして、責任体制の明確化に努めた。事業計画の中で、自分がどこにいるのかがわかるように。

人に焦点をあてるのが最重要で、日本的労使関係が息づいていたことも大事だった。あるべき労使関係は、①労使対等であること、②対立と協力の併存調和、③基本目標の共有である。ゴーンには「話し合いを重視する」との考え考え方が新鮮にうつったようだ。ゴーンの組合に対する認識は属人的なものだった。通訳は、初めの頃は労使双方で用意した。日本的な労使関係は通用せず、英語でYESかNOか、なのであいまいにできない。NRPでの労使交渉は140回に及んだが、労組はトップダウンでなく民主的な組織なので、物事に時間をかける。労使のスピード感は異なるものだ。

生産工場の集約化では、村山、車体（京都）、愛知機械（名古屋）が2001年3月までに閉鎖されることになった。生産は220万台から160万台に削減。村山工場では2300人が神奈川、栃木へ。300人が異動困難で、小型プレスで鍍金のラインにしたり、関係会社への転籍・出向で対応。また500人が本人希望により退職。京都ではマイクロバスの製造ラインを作って100人を吸収した。愛知では職種転換にはなったが、通勤には問題なく、エンジン部門で吸収した。いずれの場面でも従業員のまじめさ、責任感、意地が支えた。座間最後の車は、過去最高の品質で、最後まで供給責任が果たされた。中には不本意な形で退職した組合員もいたが、見舞金と同時に月5万円×3か月を対象者に手渡して、その際にヒヤリングを行った。あとは葉書でのやりとりを行った。

NRPに対しては不安と期待が交錯したが、人事・労務面では会社はほぼ要求を満たす形で回答をした。こちらも労基署に一人でも駆け込んだらNRPの交渉はストップするつもりでやってきた。移動した人たちに対してその後も訪問を続けた。

NRPは資材の再編にもなった。サプライヤーから条件を出すようにした。取引先数を削減したが、実質消滅したところはパレットメーカー1社のみだった。



ルノーの労組はIMFに加盟しているところが2つあった。彼らを日本に呼んで課題の共通化を始め、毎年続けられている。最大労組はCGT加盟（共産系）だが、その後IMFに加盟した。

15年が経過し、NRPを知らない組合員も増えてきたが、これはしっかりと引き継いでいなければならない。大事なことは組合が逃げないで職場から見える姿をつくるということ。経営に対してのカウンターパートとして、チェック機能の役割を果たしていくのが使命。そして、緊張感をもって「協力」をしていく。私は軽々しく「協調」という言葉を使ってほしくない。対案を持って来るからゴーンも話を聞いたのである。時代認識を互いにどれだけ持てるか。

過去の検証をし、将来をみつめて、自分で仮説をたてて見通していくことが必要ではないか。変化が常態化しているいま、労組は社会の付託にどう応えていくのが試されている。

## 2. 第81回講演会

日 時：2016年11月24日（金）

場 所：大阪・JAM西日本会館

テーマ：「今一度考えてみよう介護問題」

講 師：富田健治氏（特別養護老人ホーム施設長、前大阪府会議員）

介護問題は知っているようで、いざ介護が必要になった時にどうすればいいか意外と知らないのではないかと思ひ、「今一度考えてみよう介護問題」というテーマで講演会を開催した。

個人会員の人はご自身の問題として、現役の人はご両親の介護の問題として、改めて介護に対する認識を深めていただく場とした。

富田先生には多くの資料を準備いただき、特に介護保険制度の基礎知識や我が国の高齢化の実態や社会保障給付の推移等についての資料を説明いただいた。

現在勤められている、特別養護老人ホームの実態等についても、現職場は長年勤続者が多いが、一般的には勤務内容に比べて低賃金で退職者が多いこと。入居のためには要介護3以上の認定が必要であり、認定調査員による面接調査で要介護度が決定されること。この調査の時に元気がいいと介護度等が少し低くなることや、特養の待機者が多いがデイサービス等で利用していると少しは入居しやすいこと等、実際に介護に携わっている実態を報告された。

その他、介護施設は75%が国や市町村の援助で建設されていて、個人の負担は25%でいい中で、異常に儲けている施設もあるのはおかしいと前府会議員の立場での指摘も。あなたは後何年生かれますか？とドキッとさせる質問も投げかけながら介護問題に関心をもって人生を過ごしてくださいと強調され、介護の重要性を認識して無事講演を終了した。参加者31名。



## 3. 第72回研修会

日 時：2016年11月11日（金）

場 所：群馬県富岡市・富岡製糸場

この度の研修会は、世界産業遺産「富岡製糸場」を視察した。

富岡製糸場は日本初の本格的な器械製糸工場で、官営工場として1872年(明治5年)に設立され、日本の近代化、絹産業の技術革新・交流に大きく貢献した。閉業は1987年(昭和62年)で、片倉工業(株)の時代。片倉工業(株)は閉業後も多額の維持管理・費用を負担しながらも良好な保存状態を保ってきたことが評価されている。組合はUAゼンセンの古くからの中核組合。

朝、友愛会館前から9時30分に出発。富岡製糸場を視察し、その後こんにやくパークに立ち寄り、帰りは新宿に19時。

参加者13名。



# 友愛労働歴史館の活動（2016年9月～12月）

## 1. 展示会（常設展・企画展）活動

展示会活動は友愛労働歴史館の主要な活動であり、常設展と企画展を開催しています。常設展は2012年8月1日の新装オープン以来、「日本労働運動の100年余—友愛会・総同盟（戦前）を中心とする」をテーマに開催しています。

また、企画展は年2回、新しいテーマで開催しており、2015年9月～12月は「総同盟結成から70年—いま労働組合主義について考える—」展を開催しました。

### 「総同盟結成70年」展

と き：2016年6月6日（月）～2016年12月22日（金）

ところ：友愛労働歴史館・展示室

テーマ：「総同盟結成から70年、いま労働組合主義について考える」

内 容：第1部「総同盟（戦前戦後）を中心とした日本労働運動略史」

第2部「労働組合主義とは」

第3部「『労働組合主義』の限界と『民主的労働運動』の理論」



## 2. 講演会活動

友愛労働歴史館は企画展と連動させた講演会を、労使関係研究協会と共催で開催しています。また、独自に講演会や労働講座などを開催しています。2016年9月～12月は、以下の講演会を開催しました。

講演会（労使研と共催）

と き：2016年12月5日（月）15：00～17：00

ところ：友愛労働歴史館・研修室

テーマ：「安部磯雄と西尾末廣—社会民衆党結成90年」

講 師：梅澤 昇平（友愛労働歴史館研究員）

## 3. 調査・研究活動

友愛労働歴史館は常設委員会として「ユニテリアンと社会運動研究会」、「政治・社会運動史研究会」を設置し、調査・研究活動を行っています。2016年9月～12月は、以下の研究会を開催しました。

### ①「第11回政治・社会運動史研究会」

名 称：「民社党の青年運動と党員教育」

と き：2016年09月06日（火）15：00～17：00

講 師：黒沢 博道 元民社党組織部長・教宣部長、元富士社会教育センター常務理事

ところ：友愛労働歴史館・研修室

### ②「第12回政治・社会運動史研究会」

名 称：公開報告会「独立青年同盟の結成と排撃」

と き：2016年11月22日（火）15：00～17：00

講 師：堀内 慎一郎 日本政治学会会員

ところ：友愛労働歴史館・研修室

## 4. その他の活動

### 情報発信・PR活動

友愛労働歴史館は随時、メールレポート「友愛労働歴史館たより」を発信しています。2016年9月～12月は、第111号（2016. 9. 23）、第112号（2016. 10. 25）、第113号（2016. 11. 24）を発信しました。

また、インターネット上の友愛労働歴史館ホームページを随時更新し、情報提供を行っています。



宮城県富谷市出身の内ヶ崎作三郎(1877.04.03~1947.02.04)は、教育者・(早稲田大学教授)、牧師(ユニテリアン教会・統一基督教会、自由基督教会)、政治家(衆議院議員、民政党幹事長)として知られ、また鈴木文治の友愛会を支えた人としても記憶されています。2017年は彼の生誕140年、没後70年。友愛労働歴史館はこれを記念し、企画展「内ヶ崎作三郎—教育者・牧師・政治家の生涯—」を開催いたします。

教育者・牧師・政治家の生涯

# 内ヶ崎作三郎

第1部

その生涯  
内ヶ崎作三郎



本郷教会の内ヶ崎作三郎ら(中座右2人、左が内ヶ崎作三郎、左端は海老名洋正、上段右より栗原基、吉野作造、前列中央に小山東助。「本郷教会創立50年」より)

**明治10(1877)年~昭和22(1947)年**  
内ヶ崎作三郎は旧制二高(宮城県仙台)を卒業後、東京帝大に進み、海老名洋正の本郷教会で同郷の小山東助・栗原基・吉野作造らと活動を共にします。卒業後は早稲田大学で教鞭をとり、その後、宗教研究のため英国に留学。帰国後は教育者・牧師として活躍し、後に政治家に転身します。第1部では内ヶ崎作三郎の69年の生涯を、解説パネルなどで紹介いたします。

第2部

牧師  
内ヶ崎作三郎



自由基督教会の方、即ち内ヶ崎作三郎、栗原基、吉野作造、前列右から3人目が内ヶ崎作三郎、真中央が永井柳太郎

**ユニテリアン教会から統一基督教会・自由基督教会へ**  
明治44(1911)年に英国留学から帰国し、牧師に就任した内ヶ崎作三郎は、東京ユニテリアン教会を統一基督教会に改称。そして大正4(1915)年、新たに自由基督教会を設立します。なぜ内ヶ崎は統一基督教会を名乗り、また自由基督教会(写真)を設立したのでしょうか。第2部では「統一」「自由」を求めた牧師・内ヶ崎作三郎について、写真やパネルで紹介いたします。

第3部

政治家  
内ヶ崎作三郎



内ヶ崎作三郎、鈴木文治、安部磯雄ら、前列に永井柳太郎

**「自由の拡張」「社会問題の解決」をめざす**  
大正13(1924)年、内ヶ崎は衆議院議員に初当選し、政界進出を果たします。なぜ彼は政界に進んだのでしょうか。そこには自由基督教の「自由の拡張」「社会問題の解決」、更には「理想社会の実現」という想いがありました。第3部では同じ自由基督教の政治家(永井柳太郎、星島二郎、安部磯雄、鈴木文治、河上丈太郎ら)に言及しつつ、政治家・内ヶ崎作三郎について解説パネルや写真で紹介いたします。